

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームなごみや
(ユニット名)	ユニット2
所在地 (県・市町村名)	愛知県刈谷市井ヶ谷町伝伝原41
記入者名 (管理者)	神谷 智美
記入日	平成 21 年 3 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「急がず、ゆっくり、その人らしく」の理念をもち、前年度の実績をふまえ地域行事への参加を強化している。	地域の方との交流を通して地域との密着ができるよう、行事等へ積極的に参加していきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	問題等あれば管理者の指導を受ける、またユニット会議に挙げ随時話し合いをするなど利用者本位の暮らしを考え追及している。	新人職員に対して理念の理解・共有に努める必要がある。新人研修の場で施設の理念を理解し業務を習得してゆけるよう指導してゆきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレット・玄関前の掲示物を利用しているが、家族や地域の方に理解していただけているかは不明である。一層の努力が必要と感じる。	家族会や家族の面会時に話す機会を作り、理解していただけるよう取り組んでいきたい。現在はなごみや新聞を月1回発行し活動内容を提示する機会と各利用者担当者が活動報告書を家族へ月1回配布している。地域のとの交流の機会を増やし理念を理解してもらえよう努めたい。
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホーム周辺を散歩や畑仕事の際、あいさつを励行している。	近隣の方からのご厚意でみかん狩りをさせていただくなど少しずつ交流は増えているが、なごみやへ足を運んでもらうまでには至っていない。なごみや行事への参加のパンフレットを配布するなど気軽に立ち寄ってもらえよう呼びかけていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	回覧板を参考に、地区盆踊りへの参加・地域芸能祭への観賞、地域清掃活動への参加(職員)などを行っている。2ヶ月に1回地域運営推進会議を行っている。	現在、こども110番の家に加入している。地域清掃活動について利用者自身の地域交流を図っていきたくため次年度より利用者の参加も予定している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>管理者がキャラバンメイトとして活動しており、地域の民生委員の方を対象に、認知症サポーター講座を開講した。</p>		<p>畑で収穫できた作物を地域の方へ配布していきたい。また、独居の高齢者が気軽に立ち寄れるよう場所等に貢献していきたい。区長さんにはホームの意向を伝えているため、具体的な方法を検討していく。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の意義については理解している。会議に反映させ内容によって改善できるものから取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>詳細な話し合いを行い、意見交換を行うことができています。</p>		<p>会議に出席していない職員も会議の内容を把握・確認できるように検討していきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>月に1度程度、市の担当者が訪問されている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>介護支援専門員研修など個々の研修で学んでおり制度を理解している。</p>		<p>浸透していない職員に対しては研修を受けた職員が中心となりホーム内の研修にて学ぶ機会を設け、全職員が理解し必要なケースを発見できるようにしていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>利用者と接する時の発言、介助等に関しては、必要な注意を払っている。問題等あれば随時取り上げ、防止に努めている。</p>		<p>内部研修、外部研修において、学ぶ機会を増やしたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書や重要事項説明書をもとに説明し、納得のうえ署名・捺印していただいている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が主体の会議(寄り合い)にて利用者の意見を聞く機会を設けている。その場で解決できない意見は運営会議、ユニット会議を通じて、職員の意見交換をし反映させている。</p>	<p>利用者主体の会議を定期的に行えるようにしたい。日々の利用者からの要望・意見などは日々の生活記録表に記載し、職員間で情報を共有できるようにしている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>担当職員が月に1度、ホームでの生活について書面にし家族へ報告をしている。変更があれば随時家族へ連絡し、報告をしている。</p>	<p>来所時家族との意見交換がゆっくりできるような機会をつくってきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者が窓口となり、運営会議等で家族の意見を反映している。職員は家族の来所時など関わりの中で会話中から汲み取り苦情受付書に記載しユニット会議などで原因、改善方法を検討している。</p>	<p>意見箱を設置しているがうまく活用できていない。活用方法の検討・呼びかけをしていく。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月のユニット会議にて、職員の意見や提案を聞いている。また会議以外では、意見ノートを活用し意見を反映させている。</p>	<p>それぞれの職員と個別に面談し、直接意見を聞く機会を設けたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事や外出時には職員数を増やしたり、時間配分を調整したりと柔軟な対応はできているが、利用者・家族の要望には十分な対応はできていない。</p>	<p>職員数の充実をはかりたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>移動に関しては、必要最小限に留めている。退職者に関しては、入居者と一緒に送別会を行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修などを通じて、働きながら知識を取り入れることを行っている。又、自己啓発のため、研修会等の情報が提供されている。		研修で得た知識を現場で実用できているが、育成の為に計画に関しては、計画性に欠けてしまう所もある。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者と代表職員で、他のグループホームの運営推進会議に参加したり、グループホーム協会の西三河支部の会合に参加している。		他のグループホームなどに、職員が研修に行くことも検討中である。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	会社全体の研修会として、メンタルヘルスの研修会を開催した。		職員の福利厚生を充実させていきたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	認知症介護実践者研修やリーダー研修をはじめ、外部の研修にも積極的に参加させていただいている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に必ず本人と面談し、不安や困っていることを軽減できるように努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学の時に、家族から困っていること、不安なこと、求めていることを聴いている。入所前にも本人と一緒に家族とも面会し、不安の軽減に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅での生活が可能であると思われるケースは、入居ではなく他のサービスを勧める場合もある。		なごみやにおける短期利用も活用していきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に体験入所をしていただきホームの雰囲気を感じていただいている。		必要に応じ複数回体験していただくようにゆきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	1対1で話ができる環境を作り、ご本人様の意見や思いを聞き取り共感する姿勢で臨んでいる。		まずは利用者の意見や思いをしっかり受け止め、それに合った柔軟な対応ができるよう心がけていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来所時にはご本人の状態や変化について共有し、家族としての希望・職員からの助言など話をしながら本人にとってのより良いケアにつなげている。		面会以外での関わりが少ないため、行事や家族会への参加数を増やし家族との関わりを増やしていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所時のアセスメントや日々の関わりの中でご本人と家族の関係を理解するように努めている。		ご本人の安心の確保や関係性が途切れないよう、面会・行事への参加を強化していきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族以外の訪問は少なく、馴染みのある方との関係は保たれていない。		馴染みのある場所への外出にむけた支援は行っている。馴染みの方に季節のあいさつなどハガキを利用してご本人の近況・所在を知らせていけるようにしたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の行動や言動に目を向け、座席の配置を工夫したり、職員が介入するなどして円滑な関係が保てるよう配慮している。		利用者同士のトラブルには一人ひとりの意見を平等な立場から傾聴し、職員は柔軟な対応ができるようにする。互いの関係が良い方向にいくよう職員が介入し支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	医療機関を使用し、施設を離れている時でも連絡を取り合い、断ち切らない関係に保たれていると思われる。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話やケアプランの更新時等の機会に希望・意向を聞き取り会議で話し合いをしている。困難な方には他職員や家族との意見交換を行い、本人本位になるよう検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との普段の会話や家族からの情報をもとに生活歴や馴染みの暮らしの把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活記録表・日中の職員同士の情報交換などを利用し、日々の観察・見直しを一人ひとりの現状の把握に努めている。		生活記録表に個別ケアの記入を取り入れ、記録から利用者のケアに対して職員間で統一・把握できるよう取り組み中である。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者、ユニットリーダー、計画作成担当者により介護計画案を作成し、家族の意向を再確認しケアプランを作成している。		家族の意向をしっかりと確認しケアプランに取り入れていきたい。また、プランの内容をご本人様にも説明し日々のケアの意味を少しでも理解していただけたらと考えている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人の状態の変化に合わせて、家族や職員間で話し合いケア方法を変えているが再作成が間に合わず遅れることがある。		ケア方針が変更となった際は文書として明確化するために計画書の変更も迅速に行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	12月より、生活記録をケアプラン・モニタリングに連動できるような様式に変更したことで全職員がケアプランを意識したケアに取り組んでいる。		個別項目の記入もれを防ぎ、生活記録表をもとに詳細な情報を共有し日々のケアに反映していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個々の要望には対応できているが多機能性を活かした支援ができているかは不明である。		ショートステイの利用の受け入れに取り組んでおり、今後の展開を進めるとともに柔軟に対応していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	中学生の福祉体験学習や高校生のボランティアの受け入れなどを行っている。地域運営推進会議に民生委員が出席して下さっている。フロア行事・レク活動の内容によってボランティアの協力を得ている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ケアマネジャーや他事業所と話し合う機会はあるが、他のサービスを利用するまでには至っていない。		他事業所と話し合いの場を持ち、利用者の個々の状態に合わせて必要であれば検討していきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて、地域包括支援センターと連携を取り協働している。		なごみやの運営推進会議に出席していただけるよう、現在交渉中である。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医院の月2回の往診を受けていただいている。体調不良・特変時はその都度医療機関へ職員で受診介助をしている。		詳細な情報を主治医へ伝えられるよう職員間での連携を強化していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	受診が必要と思われる利用者については家族へ紹介・受診を勧めている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	往診して下さる病院には、当ホーム担当の看護師がいるため不明な点があれば相談・指示をいただいている。		もう少し積極的に担当看護師と情報を共有し、連携を強化し関係を深めていきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中に面会に行ったり、家族、病院関係者と話すことで、情報交換を行っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点では医療関係職員の確保ができていないため方針の共有までには至っていない。		常勤看護師を確保した上、体制を検討していきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現時点では医療関係職員の確保ができていないため終末期に関する詳細な話し合いはできていない。現段階では当ホームでのターミナルは難しい旨を家族に了承していただいている。		終末期に関する詳細な議論は行われていない。支援に取り組む話し合い、準備が必要である。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えの際、本人の不便がないように情報交換を行っている。施設で使用していた情報は、家族の了解を得られれば、そのまま持っていってもらうこともある。		アセスメント内容の充実を図りたい。ご本人・家族・ケア関係者の詳細な話し合いができるよう努力していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>発言などには注意を払い、尊重した態度で対応している。問題があれば職員間で話し合いをし改善に努めている。</p>	<p>取り決めに書面にし、職員間で意識して支援できるように配慮していく。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>言葉以外の表情、動作などから本人の意向を察するなど、個々のコミュニケーション能力に合わせ説明を行い、反応を見ながら事柄を進めるように配慮している。</p>	<p>新しく始める事柄や共同生活におけるルールについての取り決めの際は利用者にはわかるように話し、意見を十分に汲み取った上で決定するように配慮している。利用者が自分の意見をはっきり言え、自己決定ができる環境を増やしていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>何をしたいのか明確に表す人とできない人がはっきりわかれているが、職員からの誘いかけへの反応を見ながら行為を促している。無理じいせず、本人のペースに合わせる配慮を行っている。</p>	<p>日によって職員の都合が出てしまうことがある。職員側の意向の押し付けにならないよう配慮する。ご本人をやる気にさせる職員の手法を身につけていく必要がある。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>身だしなみに関しては、大部分は本人に行ってもらっている。理美容については訪問してもらっている。女性の場合は、染める、パーマなども希望に応じて実施されている。</p>	<p>希望に応じてホーム以外の理美容店の利用を検討していきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>週に1回ホームの献立を作成し、その際には利用者の意向を取り入れている。食材切り・後片付けを一緒に行っているが継続的ではない。</p>	<p>利用者によっては職員に頼りきっている傾向にあり、自主的な行動がみられないことがあるため改善策が必要である。利用者会議にて話し合っているが浸透していないのが現状である。職員間でケア方針を強化していく。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>自立度の高い利用者には、好きな食材などを居室に持ち込んでもらい、自由に摂取してもらっている。買い物時にはご本人の要望に応じて購入していただいている。おやつ時の飲み物を提供するには利用者の希望に応じて提供することもある。</p>	<p>現状では利用者によって体重増加傾向にある方も居られるため配慮が必要である。その都度状況に応じて職員間で連携し対応している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。失敗時の対応としては、自尊心を傷つけないような対応を心掛けている。便座での座位保持が困難な方に対しては安全面、ご本人様の負担感の軽減からベッド上で排泄介助をさせていただいている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	見守り、一部介助で入浴可能な方については、6日/Wで、本人の希望に応じて入浴されている。全介助の方に関しては、身体的負担を考慮して、1日間隔に入浴されている。可能な限り入浴回数・順番についてはご本人の希望に沿っている。		年に何回かは、温泉などに日帰り旅行に出かけている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼食後は個々の時間とし居室で休むなど状況に応じて休息していただいている。夜間は定期的な巡視を行い、必要に応じてトイレ誘導をしている。利用者によっては居室を自己の判断で施錠して休んでいただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を活かして役割分担をしたり、散歩・外出や行事などを取り入れて、気晴らしができる環境作りに努めている。		利用者の趣味・興味のあることへの支援を強化していきたい。地域行事への積極的な参加・外出の充実を図りたい。現在、ホーム内の活動において職員の声かけや促しにより行っている面が多いため自発的に行っていきけるよう支援していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方に関しては自己管理でお小遣い程度の金額を持っており、買い物時はそこから自分の買いたいものを購入していただいている。自己管理ができない方はホームで預かり必要に応じて提供するようにしている。		自己管理が難しい方やお小遣いを持っていない方に関しても買い物の際はご本人で現金を支払うなど現金を扱う機会を増やしたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の生活の中では散歩・買い物・図書館などの外出は個々の希望にそって支援している。外出・行事の際も利用者の意見を取り入れるように配慮している。		急な外出希望に対応しきれない事があるが、拳がった意見は汲み取り次回の外出へつなげるようにしている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日などは、その人の行ってみたい場所や思い出のある場所に個別で外出している。年間の行事で、普段行く事のできない場所や季節に合った外出を利用者の意見を取り入れながら計画している。		家族同行の外出ができるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室にて携帯電話を使用することで、連絡を取り合っている利用者もおられる。実際にはご本人が電話されることはないが希望があれば電話していただくように支援している。		自由に電話を使うことができる環境を作り、家族への連絡をご本人にで行えるよう支援していきたい。季節のあいさつなど手紙・ハガキを出す機会を作りたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問できるように努力している。丁寧なあいさつ・笑顔に心がけている。		畳スペースを整えいつでも使えるようにしておく。来所時は畳スペースを活用していただけるよう促していきたい。
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議等で拘束について取り上げ禁止となっている行為について、度々確認、留意し支援を行っている。		会議、研修の場で度々議題として取り上げ、常に問題意識が薄れないようにしていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	プライバシーの確保を望まれる方については、鍵を自己管理してもらい施錠しているが、基本的には鍵はかけていない。弊害についての理解はできている。安全性の確保のため、居室の窓ガラスは開放制限させてもらっている。		原則、施錠は行なわないがご本人の安全確保のためやむを得ない場合は玄関のみかけさせていただくことがある。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜問わず、24時間を通しての配慮ができるように努めている。入居者の所在様子を把握できるよう職員も分散し配置するよう注意している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物品に関してはしっかり用途・注意事項を把握し、保管場所を限定し取り扱いに留意している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	服薬に関しては、誤嚥防止のため二重確認を行っている。消防の実施する救命講習を受講することで、知識を得ている。転倒その他の事故が起きた場合は事故報告を行い、会議などで対応の見直しを行っている。		救命講習を全職員が受講し、知識を身につけていきたい。行方不明時に使用できるよう、搜索カードを作成しておきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員が順番に救命講習の受講を行っており、事故発生に備えている。		全ての職員が講習を受け、定期的に訓練を行ってきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行っている。		地域の方の協力が得られるように働きかけていきたい。また、地域の防災訓練等への参加をしていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクに関する話し合いは、契約時に説明を行ない概ね理解を得ている。また、ケアプランの説明時や状態の変化に応じて予想されるリスクを家族へ説明し理解していただけるよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルサインを計測し、日々の状態との変化を見極め、その情報を共有することで異常を少しでも早く発見できるように努めている。		職員の勤務体制や出勤日数により利用者の状態の発見が遅れないよう日々の情報をしっかり記録し、情報伝達を強化していきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が利用している薬剤の一覧表を作成し、服薬量・使用用途などを理解できるよう工夫している。個々に応じて服薬を支援し、特に薬剤の変更時には病状の変化を観察している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表や生活記録表を活用し排便状況を把握し、状況に応じて薬の使用・飲食物の工夫・腹部マッサージ等で対応している。		運動量の少ない利用者も居られるため外出の機会や散歩などを増やし、便秘予防に取り組むたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は口腔ケアを促し、必要な方には口腔ケア・仕上げ磨きを行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を観察・記録することで栄養状態を把握している。また月に1回の体重測定を行い、体重の増減の状態によってそれぞれに合った対応に努めている。水分に関しては定時に水分提供をし、それ以外でも声掛けを行い利用者の見やすい場所に設置しいつでも補飲できるようにしている。		個人に合わせた食事量、栄養バランスの管理ができるようにしたい。体重増加傾向にある利用者が増えているため、肥満に対する対応を強化していきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い・うがいなど徹底し、排泄物の処理に関しても取り決めがあり実行している。感染症に関するマニュアルも備えている。フロア掃除には次亜塩素酸ナトリウムを使用し消毒を徹底している。		感染症に対し、全職員が周知徹底し、過剰に反応せず必要な対策がとれるようにしたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の定期的な消毒・乾燥機の使用をし、衛生管理に努めている。食品に関しては賞味期限に留意し、食材は速やかに冷蔵庫へ保管するように気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りにベンチを設置し、花を飾ったり、季節の置物・写真をおくなどし親しみやすい雰囲気作りに努めている。		玄関前で犬を飼っているため周辺を清潔にしていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や絵などの掲示物や花を飾ることで季節感を出している。食堂・居間が連なっているため食事中はテレビを消し会話を楽しめるよう配慮している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースにテレビ・コタツを設置し少人数でくつろげる空間作りをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の希望にそって居室にテレビを置いている。ご本人の使い慣れた物や自宅で使用していたものを持ち込んでいただいている。好みのものもご本人の意思にできるだけ添えるように努めている。		馴染みのものを取り入れられるように家族にも協力を得たい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調節に関しては温湿度計をこまめにチェックし、室温に注意している。清掃時には換気を行っている。ご本人の着用している衣類にも気かけ利用者の状況に合わせて対応している。		冬場は加湿器をフロアに設置している。利用者の居室にも必要な方は置いている。定期的な掃除をする必要がある。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活日常動作が保てるように工夫されている。安全面に関しても、できるだけ配慮はされている。		浴室の手すりの数を増やすことでより安全に行為が行えるため検討したい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室に他の方が見ても解るように扉へ表札をつけている。また、トイレ扉にも解るように張り紙をしている。		トイレや居室の標示を見やすく、利用者の目線の位置に設置する。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダは洗濯物干しや花や苗を育てる場所として活用している。屋外には畑を作り季節の野菜などを育てている。季節のイベントの飾り付けを行い、季節感を味わっていただけるようにしている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の個々の要望・訴えを把握し、改善に努めようと職員間の話し合いの機会を多く持つようにしている。昨年12月より、2階ユニットでは生活記録の見直しを行い、日々の生活支援の中にケアプランを取り入れた記録を実践している。現在、全職員がケアプランに添ったケアができるよう取り組んでいる。また、利用者自身が納得の上、それぞれの力を発揮し生活していけるよう自治会を設けて少しずつ進めています。